



麦の栽培管理情報 ~穂肥・土入れ、中期除草剤の施用、タデ類対策~

令和8年2月 東部振興局生産流通部 集落営農・水田畑地化班

麦は2月中旬以降になると「幼穂形成期」、3月上中旬以降には「節間伸長期」に入ります。麦の生育が最も旺盛なため、肥料切れを起こしやすくなるほか、湿害に対する抵抗性が最も弱くなる時期です。

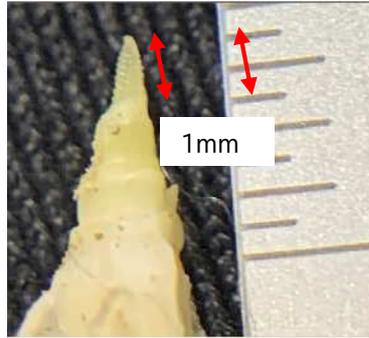
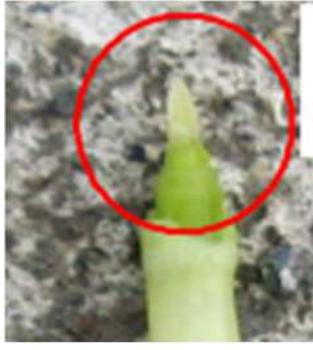
◆ 穂肥は幼穂の健全な発育を促します

1. 穂肥の施用時期

施用時期は、**茎立期で幼穂長2cm(幼穂2~5mm)**です。穂肥の施用が遅れると、肥料が茎を伸ばす方向により働くため、麦が倒れる原因になります。暖冬などで生育が進んでいる場合は、幼穂の形成時期が早くなります。圃場条件でも変わるため、日頃から圃場をよく観察し、施用時期を決めましょう。

左:穂肥適期

幼穂長20mm
(幼穂2~5mm)



右:幼穂長3mm
(幼穂1mm)

穂肥の時期には、
まだ早い

2. 穂肥の施用量

穂の数、1穂あたりの粒数を確保！

| | ハルアカネ | ニシノホシ | はるみずき | チクゴイズミ |
|------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 化成肥料 16-0-6 (N量) | 20kg/10a (N:3) | 15kg/10a (N:2) | 30kg/10a (N:5) | 20kg/10a (N:3) |
| 施用時期 (目安) | 2月下旬 | | 2月下旬~3月上旬 | |

◆ 土入れは穂肥の効果を高め、湿害の発生と倒伏を防止！

穂肥の施用直後に土入れを実施します

- ・穂肥を施用したら、直後に土入れを行います。
土入れの量は、分げつ肥の後よりもやや多めとしましょう。
- ・通常、3月に入ると雨の日が多くなります。特に九州では急に雨が多くなり、湿害の原因になります。
土入れすることで排水溝を整備し、降雨を速やかに圃場外に排除する効果があります。

*** 茎立期になって茎が伸び始めたら、麦踏・土入れはやめましょう。**

土入れ後の畝溝



各種の中期除草剤

土壌処理剤の効果が切れると、土中の深い位置にあった埋没種子が出芽してきます。防除時期を逸さないよう、圃場に入って雑草の発生状況を確認することが大切です。雑草の種類を確認し、適切な除草剤を選択しましょう。

| 薬剤名 | ハーモニーDF | MCPソーダ塩 | バサグラン液剤 |
|----------|--|---|--|
| 対象雑草 | イネ科雑草: スズメノテッポウ、カズノコグサなど 広葉雑草: アメリカフウロ、ミチヤナギ、タデ類、など | 広葉雑草: カラスノエンドウ、アメリカフウロ、タデ類、など ※イネ科雑草には効かない | 広葉雑草: ノミノフスマ、ナズナ、ヤエムグラ、タデ類、など ※イネ科雑草には効かない |
| 使用時期 | 播種後～節間伸長前 *小麦は、一年生広葉雑草について、穂ばらみ期(但し、収穫45日前)まで | 幼穂形成期 (但し、収穫45日前まで) *平均気温が15℃以上の天気の良い日を選ぶ | 大麦: 生育期 (但し、収穫90日前まで) 小麦: 生育期 (但し、収穫45日前まで) |
| 使用量(10a) | 5～10g | 200～300g | 100～200ml |
| 希釈水量 | 100L | 70～100L | 70～100L |
| 使用回数 | 1回 | 1回 | 1回 |

★使用上の注意点

- ・雑草生育初期までに散布！ 雑草が成長すると薬剤を代謝・分解して効果が劣ります
- ・天気の良い日に散布！ 散布してから6時間は雨が降らない気象条件が必要です

タデ類の成長個体



雑草(タデ類)の防除

近年、タデ科雑草の発生が増えています。昨年はタデ類の蔓延圃場が多く見られました。

タデ類の幼個体



※写真の出典 水田農業グループ

①タデ類の特徴

- ・イヌタデなどのタデ類は、一般的な麦作雑草と比べて発生が遅く、九州では1月末頃から出芽を開始し、麦類の登熟期に開花・結実します。
- ・生育初期は地面を這って麦類の下層に生育するため、見かけよりも圃場内で群生しています。
- ・湿潤な圃場や麦類の生育が悪い圃場では、タデ類が大群生し、減収や収穫作業の阻害要因になります。

◆タデ類防除のポイント

タデ類は土壌処理剤の効果が切れたあとに出芽するため、中期除草剤での防除が欠かせません。圃場の中に入って観察し、**早めに茎葉処理剤を散布**します。湿潤圃場では発生が多くなるので、**額縁排水の確認と手直し**を行います。

②除草剤「ハーモニーDF」による防除

- ハーモニーDFは、広葉雑草を中心に幅広い草種に効果があり、特にタデ類(5～6葉期まで)への高い効果が確認されています。 ※ミチヤナギ(タデ科)は最大薬量10g/10aが必要(5～6葉期まで)
- ・雑草の発生量が多い場合は、**展着剤サーファクタント30を加えると防除効果がアップ**します。
- ・ハーモニーDFは、茎葉部から吸収される茎葉処理効果が主ですが、根部からも吸収されます。若干の土壌処理効果があるので、**散布後は土入れをしばらく控えます**